

事業所名

ガリレオジュニア

支援プログラム

作成日

2025

年

2月

27日

法人(事業所)理念	<ul style="list-style-type: none"> ・「あそび」が成長の原点。 ・楽しく「あそび」、みんなで「あそび」、一緒に「あそび」、学び 認めてほめる。 							
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもの特性や課題に着目し、課題にチャレンジしようとする気持ちを育てながら、集中力、創造力、自分を信じる力を手助けする。 ・併設する医療施設(整形外科・リハビリテーション科)と連携し、手足や体の筋力やバランス感覚などを発達させるため、科学的に評価し支援を行う。 ・学校での「教育的ニーズ」を、保護者や学校とともに共有し、生活や学習上の困難を改善又は克服するための必要な支援を一緒に考えていく。 							
営業時間	10時	0分	17時	30分	送迎実施の有無	あり	なし	
支援内容								
本人支援	健康・生活	排せつ、衣類の着脱(みなしだみ)など健康的な生活を送るための支援を行います。また、手洗いや消毒など感染防止に関する支援も行います。子どもたちがすすんで自らが行えるよう、特性にあわせた支援を行います。						
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・体のさまざまな感覚を刺激し、日常生活に必要な運動機能の発達を促します。特にDCD(発達性協調運動障害)や低緊張性などの障害がある子どもたちへ効果的なアプローチを計画します。 ・整形外科医と連携し、理学療法士が科学的に運動機能を刺激する『遊び』を行います。理学療法士、保育士、児童指導員等の専門職による個別支援を積極的に行います。 						
		水泳療育	水に顔をつける、水中でしっかりと立つ、歩く、潜る、泳ぐなど、友だちと一緒に「遊び」ながら、水に慣れ、水中に入ることの抵抗を無くし、陸上とは違う感覚(自由に手足を動かせる、体重を感じない浮遊感)を体感します。水圧や水流の抵抗を受けるため、自然と体幹や四肢の筋力が鍛えられます。 (※排泄が自立している子どもに限ります。水泳療育のみの契約はご遠慮いただいています。)					
		粗大運動	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚統合を目的としたリズム運動、サーキット運動(視覚・聴覚などを手足の運動に変える協応運動支援) ・子供たちの運動能力に応じて、粗大運動を中心に手足や体幹のバランス感覚を養う活動。(協調運動) ・集団運動をとりいれ、友達と運動をする喜びを味わいながら、自分のできること、できないことを認めながら、さらなるチャレンジ精神を養います。 					
	微細運動	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具やはさみ、折り紙、ねんど、つまみ、おもちゃなど道具を用いて、視覚、聴覚及び触覚などの刺激しながらの活動(つかむ、引っ張る、ひねる、つまむ、はめる、つまむ、とおす、はる、ぬる、こする、描く、切る、はさむに関する活動) ・点を線でつなぐ、数字を追って線でつなぐなど、書字に必要な基本的な活動を行います。 						
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・ABA(応用行動分析)に基づいた行動障がいへの予防と適切行動への対応の支援を行います。 ・子どもの興味や関心のあることや生活上の場面をとりあげ、必要な知識や技能を身に付けられるよう、繰り返し継続的・段階的な支援を行います。 ・色、形、比較、数、簡単な四則演算の概念、量に関するプログラムを実施します。 						
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・非言語(身振り/指差し/サイン/ジェスチャー)、言語(2語文/3語文/名詞/動詞/形容詞/助詞など)を用いて、自分の考えや思いを言語で表出できる(伝えられる)よう支援します。また、不適切な言葉や表現方法に対しては、人やその場に応じた適切な取扱いができるよう、本児が理解できる方法で時間をかけて支援します。 ・行動や感情をコントロールするプログラムを支援します。 						
人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・SST(ソーシャルスキルトレーニング)を通じて、集団活動や協同を通じて、社会性や協調性を育てます。他者との関りの方やコミュニケーション能力を身につけ、社会生活に必要なスキルを磨きます。 ・不安定になったり、他児からの働きかけを受け止められない状況の際は、本児が相談できる環境や能力を構築し、安心して過ごせる場づくりのための支援を行います。 ・想像する力を支援します。 							
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的障害に関してはご家族やかかりつけ医と情報共有し、そのリスクを支援者が認識し支援する。 ・専門医療機関の受診について、アドバイスをを行い、その後の家族のフォローを行います。 	移行支援	家族や幼稚園や保育園職員、相談支援事業所、他事業所職員と連携をとり、子供達が抱えている問題について情報を共有します。通学する学校職員との情報共有は欠かさず行い、子どもの特性やその保護者が抱える困り事等を踏まえて、自分たちが行っている支援を伝えます。					
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・年に1回、地域で行われる行事に参加し、地域の方々と交流します。 ・地域のスーパーへ買い物。 ・就学前には、地域の小学校、特別支援学校の見学や、学校との橋渡しの役目を行います。 	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害についての社会的認識が急速に進んでいる現状で、ASDやADHD等の特性について正しい知識を得られるよう、職員が研修会に参加する環境を整備しています。 ・医学的な検知からについても、特性についての研修を行っています。 					
主な行事等	季節の行事(節分、お花見、七夕、ハロウィン、クリスマス会など) クッキング、工場見学、お祭り、水族館観覧、屋外公園、地域音楽祭出場、プール活動、買い物学習活動ほか 防災訓練(避難訓練、その他避難場所及び経路の確認や地域自主防災隊との連携訓練)							